

活動レポート

日本技術士会北海道本部 地方委員会
道東技術士委員会

文責：道東技術士委員会 幹事長 鈴木 正裕

「DX を活用した安全・安心な社会資本整備と持続可能な未来のために」

第 40 回 技術者交流フォーラム事業 in 釧路

1. はじめに

去る 2022 年(令和 4 年)10 月 6 日、通算第 40 回となる技術者交流フォーラムが釧路にて行われました。この事業は北海道開発局、寒地土木研空所、及び日本技術士会北海道本部が共催する事業で、これまで全道各地で行われてきた、読者の皆様にもなじみのある事業かと思えます。道東地域ではコロナ禍による 2 年ほどの空白を経ての開催となりました。当委員会は今回、企画の立ち上げからフォーラム当日の裏方まで色々とお手伝いをさせて頂きましたので、ここに活動レポートとして寄稿させていただきます。

2. フォーラム概要

開催日時：2022 年(令和 4 年)10 月 6 日(木)

13:30 ~ 17:00

開催方法：事前予約による参集方式

テーマ：「DX を活用した安全・安心な社会資本整備と持続可能な未来のために」

参加者数：定員 150 名

基調講演：「安全・安心で豊かな未来社会に導くデジタル技術～ Edge-AI による映像データ解析と現実世界の定量化～」
北海道大学大学院工学研究院
先端モビリティ工学研究室 准教授
高橋 翔氏

講演 ①：「釧路開発建設部における i-Construction の取組」
釧路開発建設部 技術管理課長
長屋 延和氏

講演 ②：「デジタルカメラを用いた鋼橋の 3 次元出来形管理」

道東技術士委員会 佐藤 孝英技術士

講演 ③：「ドライブレコーダー撮影画像からポットホールを検出する技術」

寒地土木研究所 寒地道路保全チーム
上席研究員 丸山 記美雄氏

技術交流：展示ブースにおける展示・技術者交流

展示：釧路開発建設部、寒地土木研究所、北海道大学、釧路市、釧路観光連盟、道東技術士委員会、釧根測量設計業協会、釧路建設業協会（順不同）

3. フォーラム参加レポート

フォーラム当日は、朝から釧路開建や寒地研の皆さんと共に、当委員会の数名がパネル等の設営に参加しました。今回はパネルや動画等の展示が多く、今までになく豪華な技術展示だったように思います。当委員会は、我々の活動内容の紹介として、2019 年(令和元年)に行った講演会及び「防災まちあるき」の内容をまとめ、展示しました。

フォーラム参加者は事前登録の上、マスク着用、受付での検温、手指消毒等の感染防止対策を行った後に聴講、技術者交流に臨みました。フォーラムが開催された 10 月は新型コロナ感染者数が少し落ち着いていた時期で、フォーラムの開催には適期であったと、今振り返るとそのように思えます。

講演会場は他者との距離に配慮した席が用意されていました。以前のようにすし詰め満員、というわけにはいきませんでした。用意された席は後方ま

でほぼ満席で、コロナ禍であることを思えば盛況であったと思います(写真-1)。



写真-1 ほぼ満員の講演会場

フォーラムの開催にあたっては、井上勝伸釧路開発建設部長の挨拶、続いて蝦名大也釧路市長の挨拶(伴副市長が代読)があり、その後講演がスタートしました。

それぞれの講演の内容の詳細については割愛しますが、基調講演ではデジタル技術のスポーツにおける活用についてご教示頂く等、非常に面白くまた興味深い話題を提供して頂きました。また、一般講演ではそれぞれ発注者、受注者、研究者の立場での講演となり、どれも勉強になる話題でありました。なお、当委員会からは佐藤技術士にご発表いただきました(写真-2)

最近はオンラインでの聴講にすっかり慣れてし



写真-2 講演する佐藤技術士

まったせいなのか、会場に参集し生の講演を見聞きするというのは、一種の緊張感があり、少しでも新鮮な気分で、楽しく聴講できたように思います。閉会の挨拶をされた竹内正信寒地土木研究所長もそんな雰囲気を感じておられたのか、心なしか嬉しそうなお様子であったと感じるのは、主催者側として少しお手伝いさせて頂いた者の欲目でしょうか。

また、今回のフォーラムのレポートとして特筆しておくべきと私が感じたのは、基調講演と一般講演の間の技術者交流の時間です。これまでのフォーラムでは、講演の合間の休憩時間が技術者交流をするための時間としても割り振られていたように記憶していますが、今回は、“がっつり”交流のための時間が割かれており、また高橋准教授も自ら展示ブースで説明をされる等、あちこちのブースで会話、交流が見られ、これまでになく展示ブースでの交流が盛況であったと感じました(写真-3)。



写真-3 展示ブースでの技術者交流

4. おわりに

今回のフォーラムは盛況のうちに終了となりましたが、開催までには2度の中止を経る等の苦労もありました。そんな長い間、フォーラムの開催にご尽力頂いた釧路開発建設部、寒地土木研究所の皆様にはこの場を借りて厚く御礼申し上げます。また、講演や会場設営にもご協力頂いた委員会メンバー、更には当日足を運んで頂いた受講者の皆様にもお礼申し上げます。このレポートを終わりたいと思います。